



運動会「本当に 一人一人が主役だなあ」

校長 下畑 茂

◇「成長が顕著で、みんな輝いてみえた」(感想より)

前日の会場準備。こども園の子ども達も来賓用のイスを水ぶき。低学年は渡り板、中学年は長机運び。高学年は自分で仕事を見つけて汗を流す姿。運動会スローガン「みんなでやりきる」全力・協力が、随所に見られ、これが飯地小学校なのだと感じました。

職場体験に来ていた卒業生が話してくれました。「飯地小を卒業して、外から見て改めていい学校だなあと思う。人数は少ないけど全校が一緒に活動できる。その中で『6年生みたいになりたい』という願いが一輪車だけでなく、今も引き継がれている。この実習でそれを感じて嬉しかった。また、子どもを中心に、関わってくれる人がたくさんいることを思い出し、『地域の人と一緒に創る学校』だと思った」

彼女の言葉に、今の飯地小学校の全てが詰まっています。私たちが大切にしていることを参観された方と再認識することができた運動会になりました。

【保護者の感想より】

いつの間にかこんなに成長していたんだなあ。6年生が引っ張り、サポートする4年生。それに応える3年生。かわいらしい12年生。すごい絆が見られました。みんなで成功させようとする熱量が感じられ、本当に一人一人が主役だなあと思いました。

◇いつまでも心の中に在る「竹馬の友」

運動会を終え、一見勝之(いちみ かつゆき)三重県知事が研修会で話された言葉を思い浮かべました。「たくさんの友人と出会ってきた中で、小学校の友達はいつまでも『竹馬の友』である。時にライバルとして競い合い、けんかもした。そこには打算がなく、今も貴い関係である…」

私の話になります。30年前に、父親を亡くしました。葬儀で父親の友人の方が弔辞を読んでくれました。「いつも一緒だった。竹馬の友だったね。一つのサツマイモを半分にして食べた。あなたは必ず大きい方を私に渡してくれた…」学生で親元を離れ、その後就職。父親がどんな人であったか、その時に初めて知った気がしました。父親が私に残してくれた言葉となりました。

景色も人もいつまでも変わらないものは在りません。それでも心の中にある思い出だけは、その時のまま色褪せることなく残っていきます。「一輪車の友」として。



飯地小学校運営協議会コーナー 飯地小学校・いいじこども園 合同運動会 10月18日(土)開催

～地域ぐるみで育てたい姿『豊かな体験を通して、ふるさと飯地への愛着と誇りをもつ』～

天候にも恵まれ、飯地小学校・こども園合同の運動会を予定通り行うことができました。学校運営協議会委員の方々を始め、ご来賓の皆様、地域の皆様方に来校、応援いただき誠にありがとうございました。夏休みにはグラウンドの整備にご協力いただきました。取組当初は、猛暑が続きましたが、子ども達は恵まれた環境で、日々の練習を行うことができました。小規模校ではありますが、20名一人一人の一生懸命な姿は、参観者に笑顔、そして元気を届けることはできたでしょうか。子ども達の原動力、安心感は、日頃の皆様方のお力添えのおかげです。今後も、学校教育へのご理解ご協力の程、宜しくお願い致します。【参観された方の感想】を紹介します

- ・「飯地音頭の企画は、大変ありがたいです。子ども達が飯地にこの曲があることを誇りに思ってこれからも成長し、大人になっても思い出して欲しいと思います」
- ・「大きな声、元気ハツラツな行動。きびきびとした積極的な姿。素晴らしいことです。『数』より『質』だと思いました。これは地域に住んでいる我々も考えねばと感じました。これからは、『質』を大切にしていきたいと思いました」

